

第200号

連携室だより



公益財団法人
北海道医療団

帯広第一病院



帯広第一病院理念・基本方針

【理念】

地域に信頼される病院を目指し、質の高い、思いやりのある医療サービスを提供する。

【基本方針】

- 1 患者の皆様の安全と権利を守ります。
- 2 地域医療機関との連携を推進します。
- 3 救急医療の充実に努めます。
- 4 研修や教育を積極的に行います。
- 5 働きがいのある職場を作ります。

創刊号

第200号達成！！

平成14年に創刊した連携室だよりも今号でついに第200号となりました。それを記念して、創刊当時のお話も掲載しております。

左の写真は創刊号の表紙です。カラー版がなくて残念ですが、覚えていらっしゃるでしょうか？当時からご覧いただいている皆様にも懐かしく感じていただけると嬉しい限りです。



平成14年当時のスタッフ写真

左から現在の横尾看護部長、林室長（帯広西病院）、下川原室長（音更病院）



帯広第一病院（正面より）

今号の内容

- 院長挨拶
- 「地域医療連携室 開設にあたって」……2
- 地域医療連携室のご案内①……3
- 地域医療連携室のご案内②……4
- 「連携室だより」
- 発刊にあたって……4

今号の内容

- ・退職医師よりご挨拶 / 完全週休2日制のお知らせ 院長 山並 秀章 …………… (2)
- ・令和3年度地域医療連携室実績報告 地域医療連携室長 圓佛 かほる …………… (3)
- ・連携室だより第200号を迎えて 法人事務局長 番場 規真 …………… (4)



退職医師よりご挨拶

～9月末をもって退職となる医師よりご挨拶いたします～



外科
副部長

青木 泰孝

十勝管内の先生方、医療スタッフの皆さん、いつも大変お世話になっております。

この度、令和4年9月で帯広第一病院を退職することとなりましたので、ご報告させていただきます。約2年半ですが、帯広第一病院に赴任し、東北大学大学院を終わって間もない時期であり、臨床になかなか慣れず、多くの苦労もありましたが、医療スタッフの皆様のご指摘、対応もあり、充実した外科医生活を送ることが出来たと考えております。特に外科・井伊貴幸先生からは手術はもちろんですが患者様の周術期の治療プランにおける様々なシミュレーションの必要性を繰り返し、ご教授いただきました事、本当に心から感謝しております。この経験は外科医としての財産であると考えております。

今後は、10月から家族のいる札幌の自宅に移り住むことになっております。札幌中央病院外科に勤務予定でございます。まだまだ未熟者でございますが、帯広で得た経験を活かして、今後も研鑽を積んでいく所存でございます。2年半ですが、本当に有難うございました。



消化器内科
専攻医

東京都立多摩
総合医療センター

室井 勇人

6か月という短い期間でしたが、大変多くの経験をさせていただきました。東京とはまた違う広域な範囲の救急医療、多様な疾患に柔軟に対応する対応力、ただ自科に関わる疾患に対応するだけではなく、患者様の背景疾患や併存疾患にも柔軟に対応する能力、高齢かつ独居、自宅生活の多い環境で退院後の環境調整、必要に応じての他院との連携と、地域医療だからこそ必要な経験を多く積ませて頂きました。

また、まだまだ未熟な身ですが内視鏡手技も積極的に経験させていただき、今後消化器内科医として活動していくうえでとても大事な経験をさせていただきました。

先生方、コメディカル、スタッフの皆様方、多くのご指導ご鞭撻有難うございました。今後も帯広第一病院での経験を忘れず、沖縄というまた全く環境の違う地域での地域医療環境で経験を積み、消化器内科医としてこれまで以上に成長していけるよう努力してまいります。

完全週休2日制のお知らせ

院長 山並 秀章

十勝管内の医療福祉施設の皆様には、患者さんの受け入れ・ご紹介でいつもお世話になっております。帯広第一病院では今まで第2、第4土曜日の午前中に診療を行なっていましたが、**本年10月より全土曜日を休診**とすることにいたしました。これは、北海道医療団の職員全員に対してより働きやすく魅力ある職場環境を提供することで、国の進める働き方改革を推進していく、という目的のために決定したものです。

土曜日の診療を希望なさっていた患者の皆様には、ご不便をおかけすることになりますが、何卒ご理解ご協力のほどお願いいたします。

急患等に関しては救急センターで引き続き対応致しますので積極的な紹介を頂けますようお願い致します。

令和3年度地域医療連携室実績報告

地域医療連携室長 圓佛 かほる



地域の先生方には日頃より多くの患者様をご紹介いただき、誠にありがとうございます。

早速ですが、以下のとおり昨年度の地域医療連携室の実績をご報告いたします。

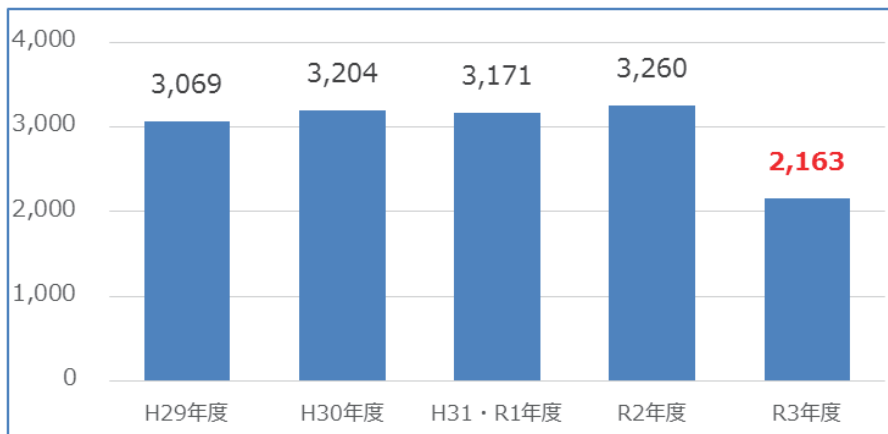


表1「紹介状況」

表1は当院への紹介状況の推移を示しています。令和3年度は2,163件と、院内クラスターが大きく影響し、例年より約1,000件も激減しました。現在当院では環境整備や、PCR検査内製化をはじめ検査体制を強化するなど、感染制御のための様々な対策を施しています。

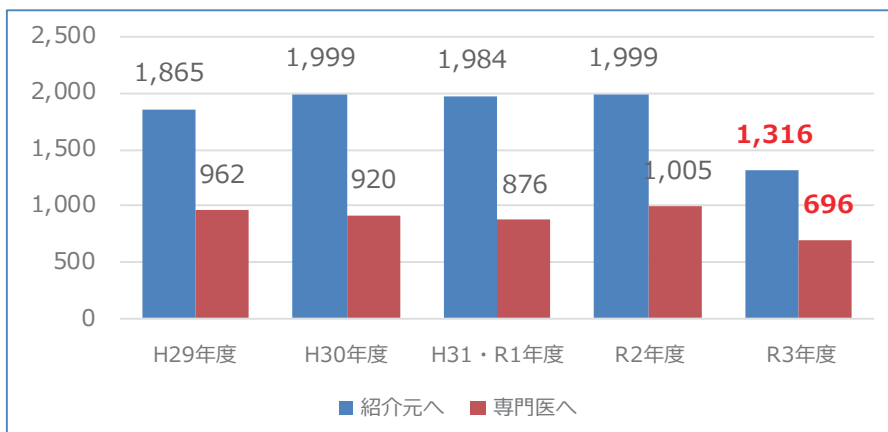


表2「逆紹介件数」

逆紹介の推移が表2になります。紹介元の先生へお戻りした件数、専門医へ紹介した件数を表しています。逆紹介件数も紹介件数同様、例年より大きく減少しましたが、こちらもクラスターで診療機能を停止した影響ですので、引き続き今年度も積極的に逆紹介に取り組みます。

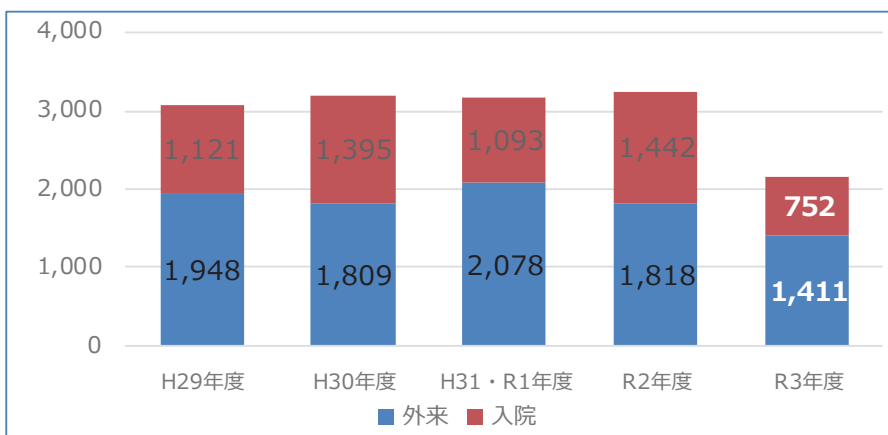


表3「紹介入院・外来件数」

表3は紹介患者様の入院・外来の割合を示しています。昨年度は入院に繋がった方は1,411件で全体の紹介件数の34.7%と、令和2年度の44.2%と比べこちらも大幅減となり、コロナ禍で入院受け入れに制約が生じたことが要因と考えられます。

昨年度は2度の院内クラスター発生により診療機能を停止した期間、患者様の受け入れが困難となり、地域の先生方にも大変ご迷惑をおかけしました。今後もコロナ禍においては感染対策上ご不便をおかけすること多いことと思いますが、これまで同様スムーズな受診・検査予約に努めてまいりますので、引き続き当院地域医療連携室をご利用いただけますようお願い申し上げます。

連携室だより第200号を迎えて

法人事務局長 番場 規真



2002年8月、帯広第一病院に地域医療連携室を開設し今年で20年目を迎えましたが、開設時より発行しております広報誌「連携室だより」も、本号をもって第200号となりました。開設20年と第200号発行の節目を迎え、地域医療連携室の運営に関わってきた立場としてご挨拶申し上げます。

開設当時、国の政策より「病診連携」という言葉が業界のキーワードとなり、患者紹介率等の概念が診療報酬に適用され、地域の先生方より患者さんを多く紹介して頂く事が病院運営の最重要課題となっておりました。

そこで、連携を専ら担当する部署として地域医療連携室を十勝管内では北斗病院、帯広厚生病院に次いで3番目に開設、まず最初に取り掛かったのは、患者さんをご紹介頂いた先生方への返書管理と返書内容の充実でした。

次に取り組んだことが、病院のタイムリーな情報を発信するための広報誌作成でした。こちらは地域の先生方を訪問させて頂いた際、「第一病院にはどんな先生がいるの?」、「得意分野は何なの?」等の質問を多数頂き、もっと病院の診療体制を地域に発信する必要があると自覚しました。

このため地域の医療機関向けに広報誌「連携室だより」を作成する事を計画し、医師の紹介や診療実績を積極的に公開する事から始めました。当初は3か月に一度の発行を目標に作業を進めましたが、毎回計画通りに作成できず大変苦労しました。やっとの思いで発行した第1号の広報誌は、決してタイムリーな情報掲載とはならなかった事を記憶しております。

それを踏まえ、目標を毎月の広報誌発行として、毎週定期的な打合せの場を設け、掲載内容の協議、原稿依頼などの役割分担、進捗管理を徹底して行いながら、数か月先までの掲載内容を確認、数年かかりましたが現在の毎月発行体制を整えました。なお、業者に校正を依頼すれば経費がかかりますので、帯広第一病院の広報誌は印刷以外全て自前で校正しております。業者と比較されれば手作り感は否めませんが、逆にそこを大切に、何よりもタイムリーな情報掲載を最優先しております。



今では、十勝管内の医療機関や消防、保健所、市町村、新聞社、更に当法人へ寄附等ご支援を頂いた企業にもお送りしております。今後も、皆様に興味をもって読んで頂けるよう、心を込めて連携室だよりを発行してまいります。何かご意見やご要望等がございましたら、是非地域医療連携室へお寄せ頂ければ幸いに存じます。

発行 公益財団法人北海道医療団 帯広第一病院 地域医療連携室
〒080-0014 帯広市西4条南15丁目17番地3
TEL 0155-25-3121 (病院代表) / 0120-558-091 (連携室直通)
FAX 0155-27-0248 (連携室専用) e-mail renkei@zhi.or.jp

